

児童文化部が

第52回中・四国保育学生 研究大会でがんばりました!

平成23年12月3日(土)に松山東雲女子大学・短期大学で、児童文化部の学生14名が舞台発表をしました。授業や教育実習で学んだ手遊びを取り入れ、「笑顔のもとはおもいやり」というテーマに基づいて、手話歌や手遊びを交えた劇、歌とダンスというステージ構成にまとめ上げ、日ごろの学習や活動の成果を力いっぱい上演しました。わずか15分間の発表ですが、学生たちはこの日に向けて授業や学校行事の合間を縫って練習を重ねました。その甲斐あって、達成感と喜びに満ちたとびきりの笑顔でステージを終えることができました。

中・四国保育学生研究大会とは…?



中国地方と四国地方にある保育士を養成する大学、短期大学、専門学校等の学生たちの研究や活動の成果を発表する場として毎年開催されているものです。幼児教育学科では毎年、舞台発表の部に参加しています。



手話歌に続いて行った劇の1コマ。公園にある人気のパン屋さんに来てきた親子がメロンパンを買うところ。このあと女の子が買いに来るのですがパンが売り切れてしまって、泣き出してしまいます。その様子を見たさっきの親子連れが女の子に自分たちのパンを分けてあげ、みんなが笑顔になる・・・というお話です。

手話歌を歌っているところ
「FOMOIYARIの歌」



劇が終わった後のダンスシーン♪



歌はV6の「WAになっておどろう」だよ!



☆感想☆

練習は毎日大変で、もっと練習しておけば・・・とも思いましたが、審査員の方に細やかなところまでじっくり見ていただき、工夫した点や、頑張った点など褒めていただきました。具体的には、劇中のパンは全て手作りで本物そっくりだということ、舞台の出入りが正確で練習を積み重ねていたことが良く分かるということなどでした。また、本番では、会場のみなさんが手話歌や劇中の歌などを歌ったり、一緒に手話をしてくれたりして嬉しかったです。